

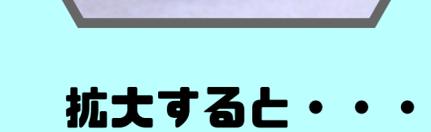
(2) デコボコ石



<形>

細長い箱みたいで、表面はデコボコ。全体的にとても固くてしょうぶ!

よく見ると、うすい平らな板を、何枚も横にはりあわせたような形なことがわかります。



拡大すると・・・

板みたいになっている部分は、つやつやで光るところがあります。



<大きさ>

10 円玉をふたつ横に並べたくらい。



その正体は

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

●

ナウマンゾウの歯の化石

現在は絶滅してしまった、ゾウの仲間の歯の化石です。まだ生まれて数か月の赤ちゃん

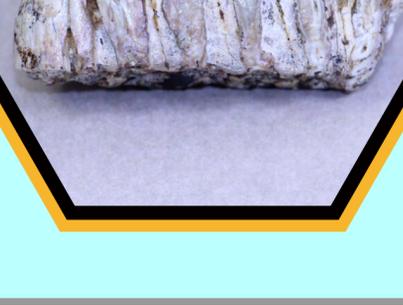
ゾウだったと考えられています。この化石は二宮町一色の、およそ 30～40 万年前の海の

地層のなかから発見されました。

表面のつやつやした部分はエナメル質という

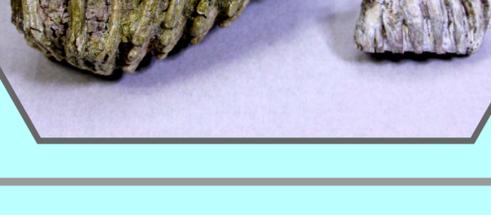
いちばん固い部分です。皆さんの歯の表面も

エナメル質からなっていますよ。



◆大人のナウマンゾウ化石とくらべると、4分の1以下のサイズです。

左が大人のナウマンゾウ化石。平塚市上吉沢で発見されたものです。



◆ゾウのなかまの歯は、上下に4本しかありません。一つ一つの歯は、うすい板をいくつも束ねたような構造になっています。

ナウマンゾウの歯をつくる板のような部分がバラバラになった化石（平塚市上吉沢産）。



◆ナウマンゾウの赤ちゃんの歯の化石は、ガケにつくられた古墳を調査している最中に、ガケの地層の中から発見されました。古墳をつくった古墳時代の人

も、この化石に気が付いていたのでしょうか？

ナウマンゾウの赤ちゃん化石が発掘された当時のようす。古墳の発掘調査中で、ガケに空いている穴は横穴古墳です。



化石発掘現場の今のようす。

緑が丘古墳公園という名前の公園になっています。

